

弁護士法人福岡法律事務所

代表弁護士 福岡 則博、弁護士 尾崎 悠吾

〒665-0845 兵庫県宝塚市栄町2丁目2番1号ソリオ3(5階)

TEL: 0797-87-5606 FAX: 0797-87-7160

HP: <https://www.fukuma-law.com/>

Mail: office@fukuma-law.com

執筆: 弁護士 福岡 則博



Legal F : Forces for Friends, Families and Fortunes (友人、家族、財産を守る力)

空海「即身成仏義」(生涯: 774~835年)

① 「訳注 即身成仏義」(松永有慶 春秋社)

② 「空海コレクション2」(宮坂有勝 監修 ちくま学芸文庫)

1 前回のニュースレターにおいて空海の「声字実相義」をご紹介しましたが、今回は、同じく空海の「即身成仏義」をご紹介したいと思います。読み方は、前回とほぼ同様であり、上記①における原文(返り点付き漢文)の部分をコピーし、仏教辞典と上記②の語釈を参考にして、その原文を読むというスタイルです。ほんの少し漢文の読み方にも慣れ、また、ほんの少し仏教用語にも慣れ、繰り返し読むことで考え、少しずつ空海の世界に触れていったというところでしょうか。

2 本書を読み始めるまで、「即身成仏」という言葉については、ごく単純に「この身はこのままで仏である」あるいは「この身はこのままで仏とすることができる」くらいの意味しか思い浮かばない状態でしたが、本書を読むにあたっては、既に空海の「声字実相義」を読み、その**圧倒的な論理性**に触れておりますので、空海であれば、おそらくは即身成仏についても、これを立体的、体系的、普遍的に論ずるのだらうと思って読み始めたのでした。

3 本書を読み進み、また、読み終え、そしてまた、読み返して抱く感想は、空海の世界は、私の予想をはるかに超えるものであったということです。空海は、**恐ろしく理論的**です。それは宗教的境地を情緒的に述べるものではなく、**即身成仏とは一体何なのかを理論的に説明しようとするもの**です。

その概要を不十分ですが、私なりに述べてみたいと思います。

4 空海は、まず、冒頭において、これまでの經典においては、「三劫成仏」(さんごうじょうぶつ)、つまり**宇宙の始まりから消滅までの時間を3回分かけなければ成仏できない**とされていたのを、自分は今、「即身成仏」つまり**人はそのまま成仏している**という思想を打ち立てたと宣言します。実に大胆な、自信に満ちた、挑戦的と言ってもよいくらいの宣言です。

5 そして、空海は、**即身成仏とは何かを漢字 56 文字からなる 2 頌(じゆ)で表現**します。頌とは詩文のことですが、ここでは「段落」と考えてもよいかと思います。**第1段落は「即身」に関するもの**で、漢字7文字からなる文が4つ(4文・28文字)で構成されており、**第2段落は「成仏」に関するもの**であり、これも第1段落と同様に、4文・28文字で構成されています。そして、空海は、この2頌の言葉の一つ一つを膨大な經典知識を背景として解説していくものであり、その展開と切れ味は見事というほかありません。



6 第1段落「即身」の第1文は、「六大（ろくだい）無碍（むげ）にして常に瑜伽（ゆか）なり」です（ご覧の通り漢字は7文字です）。この1文で、空海は世界の捉え方の根本を語ったと言ってよいでしょう。一般に、世界の構成要素は「五大」とされ、それは、地・水・火・風・空を意味しますが、空海は、これに「識」を加え、「六大」とします。「識」とは人間の認識から悟りまでも含む精神作用の一切を意味するものであり、認識の対象だけでなく、認識そのものも世界の構成要素とするところに空海の特徴があると言えますでしょう。

7 しかし、さらに空海の独創的なことは、上記五大の地・水・火・風・空を単なる物質的な事象にとらえるだけでなく、それらはそれぞれ、生死の超越・言語の超越・迷いの超越・因縁の超越・一切の無を意味するものとしてとらえることです。そして、それらは無碍つまり自由自在で、瑜伽すなわち相互に交流して人間の認識しうるものであるとされます。これらが「即身」の「体」すなわち世界の構成要素の存在形式であるとしします。

8 これに続く第2文においては、これらの存在の性質（「即身」の「相」）、第3文においては、これらの存在の発現態様（「即身」の「用」）をそれぞれ述べ、第4文において「重重天網なるを即身と名づく」（漢字4文字）とし、六大、すなわち世界の構成要素のすべてに仏が無限の網のごとく重なっているとして、これを「即身と名」づけ、その全体像を明らかにします。

9 第2段落は「成仏」を扱い、「法仏の成仏」すなわち法仏が成仏しているとはどういうことであるかを語り、最後の第4文においては、「円鏡力の故に実覚智なり」（漢字7文字）とします。仏の完全なる力は鏡のごとくすべてを映し出す力でもあり、これによって真の悟り、すなわち成仏に至るとされます。この最後の文を前段の第4文と重ね合わせると、無限の鏡で無限の映像が無限に映し出されているかのようなイメージを起こさせる力があるように思った次第です。

10 随分ややこしい話をしてしまいましたが、私の理解するところを率直に書かせて頂きました。

空海の言葉には宇宙のエネルギーを文字に閉じ込めたような凝縮感、緊張感があり、それらを読んでいくとそのエネルギーが言葉の壁を打ち破って再び宇宙に放出されていくように感じられます。

恐るべき天才と言うべき方であり、もし世界に思想のオリンピックがあるとすれば、空海先生には是非とも日本代表として出場していただき、釈迦やプラトンと話をしてみたいと思う次第です。

以上